

なないろ通信

No. 4

「指定管理者制度勉強会」編

・・・育くみ隊活動は公共施設づくりのコーディネーターから人と人とのご縁結びのコーディネーターまで、まるで虹のように、いくつもの色がまざりあう多様な活動です。それに関わるスタッフもまた、年齢、職業、特技、性格などなど様々。この「なないろ通信」ではそんな育くみ隊に関わる人たちがそれぞれの視点で、育くみ隊活動を紹介したり、最近身の周りで起こった「エンガワ」な出来事、普段考えておかしなことなどを紹介します。

2004年4月10日(土)14:00-16:30、榎木倶楽部(井元邸)を会場として、指定管理者学習会は開催された。講師は、富永一夫氏(NPO・FUSION長池理事長)である。講演の構成は、NPO・FUSION長池の紹介、NPO運営と施設運営の関係、施設運営と地域活動の接続方法まで多岐にわたるお話を頂いた。長池公園という大きな自然公園の中にある「ネイチャーセンター」は、自然体験施設という役割を帯びており、2000年4月に総工費7億円を投じて完成した。

NPO・FUSION長池にとって、ネイチャーセンターの管理運営は、NPOの事業の一つという位置にある。逆に、富永氏からは「施設管理の業務があっても無くとも取り組む活動が充実していること」の重要性が指摘された。具体的には、「団地管理業務(住民の力をマネジメントして修繕などを行う、インターネットバンキングで団地会計も実施)」「コーポラティブハウス支援(第1号は14世帯で完成、現在2号、3号プロジェクトが進行中)」「多摩ニュータウンのデジタルマップ事業(人口統計を入れ込み、カゴメもスポンサーとして参画)」といった事業展開がNPO・FUSION長池では行われており、その事業推進に当たっては、富永氏が民間企業で鍛えた「マーケティング」の技術が活かされていることが際立った。

ここには、富永氏が47歳にして民間企業を辞めるというリスクを背負ってNPO法人設立に踏み切った点の重要性が指摘できる。94年から「自分の飲み仲間づくり」を目的として地域活動を始めた富永氏は、99年にネイチャーセンターの話題が立ち上がった時に、「この施設を地域NPOで運営できれば、地域にとって大きなメリットになる」と悟り、NPO法人の設立から施設管理の受託までの流れを作り出していったのである。

指定管理者制度の制定目的は「公共施設運営のコストダウンとサービスの向上」である。前者は「常時3名のスタッフ構成には、民間コストで4名分(公共団体コストで3名分よりも安い)が妥当」との指摘があり、実現は可能である。後者の実現には、NPO側からの新しい評価指標を提起する事の重要性が指摘された。富永氏が提唱する評価軸とは「ボランティア会計(一般会計とは別にボランティアの労力提供を数値化することで、非貨幣的価値を視覚化する方法)」「顧客満足度調査(利用者の満足度をアンケートで押さえる)」「来館者数」の3つである。

こうした明確な評価指標をもつことで、透明な施設運営が実現するとともに、真に「地域の利用者にとって価値の高い公共施設」の実現を図ることが望ましい。こうした富永氏の姿勢に学ぶところが多いと共に、この考え方が全ての公共施設運営に適用される事で、現状の公共施設の価値を高め、使いこなす方向性を期待され、「貞奴邸」運用に向けても重要な示唆であったと思う。

以上の議論を踏まえて、「施設管理のため」ではなく、「東区全体の活性化のため」に「貞奴邸」管理運用の必要性が浮き彫りになった。

<三矢勝司/理事>

✿ MOMO日記 ✿

快晴!4月25日に「手すき和紙ではがきを作ろうワークショップ」がありました。まず、はがきのデザインを考えました。加納先生の作品は「さすが先生、すごい!」という感じを受けました。他の参加者の人達の作品も、おしゃれ、おもしろい、かわいいなど、いろいろなデザインがあって「個性が出てなあ」と思いました。

次に、お庭に出て、和紙の原料となる「みつまた」と水を混ぜました。そして、おくらかな?と思うほど、ねばねばした「とろろあおい」も混ぜました。混ぜている間には、みなさんと話したり犬のココと遊んだりしました。他にも、いろいろな作業をし、最後にアイロンをかけて、オリジナルのはがき、ついに完成!!(やったー☆)私は、はがき作りは初めてだったので、とても楽しい体験でした。それに今まで知らなかった人とも仲良くなれたのでうれしかったです!最後に、先生ありがとうございました。

石川夢子(小6)

☆ MOMO周辺記 ☆

MOMOのある名古屋市東区では毎年6月の第一土・日に「天王祭」が行われ、大切に受け継がれてきた5輛の山車が登場します。MOMOから一番近い『神皇車』を支えていらっしゃる野々山さんは筒井町商店街の酒屋さんです。50年前から祭に参加され、そのうちの30年間山車を担いでおられたそうです。

4tもの山車を構方が持上げたまま540度向きを変える「回転」やお隣の『湯取車』との「出会い」での競演などいくつもの見所がありますが、千秋楽の夜の「出会い」が終わって建中寺へ戻ると、篠笛と埴子舞子が流れてくると何とも言えない感慨が込み上げてくると話して下さった野々山さんの言葉が心に残りました。毎年見に行くだけでしたが、今年是非その場面に参加したいと思います。

もうじき始まるお雛子の練習の音色がMOMOにも聞こえてくるでしょう。今年は6月4日(金)の宵祭から6日(日)までの予定です。どうか雨が降りませんように。 <鈴木智子/会員>



【風の記憶】

私はノーマライゼーション紙芝居(風穴一座)の座長を務めている関係で、個人的にも地元小学校から高校における福祉学習の支援活動をしています。まち学習同様、福祉学習もその学校の方針や姿勢によって自ずと学習の期間、密度が異なってくるものです。

一昨年、一年間に渡ってコーディネートさせて頂いた半田小学校5年生の総合学習では、担当教諭の福祉に対する強い想いと、それに応えようとするこちらの気持ちとが相まって、多くの機関や方々の協力の下、物理的な(バリアフリー学習)を通して、人が生きてゆく上で大切な他者に対する思いやりのこころや、やさしさを子どもたちに学んでもらうことに成功しました。

担当教諭とはメールで互いの考え方を伝えあい、互いに理解しながら打ち合わせを重ね、人として信頼しあううえで学習を進めて行ったものです。その姿勢は子どもたちにも好影響を与えたらしく、学習から二年が過ぎた現在でも街中で偶然会っても「大久保さん、こんにちは」と、子どもたちの方から親しげに声をかけてきてくれるほど。

まちづくりも福祉も、基本はやはり「ひと」であり、(コミュニケーション)なのですね。

<大久保康雄/理事>

【編集後記】

海を見ながら山を見ながら島根県浜田市に行ってきました。浜田のまちの縁側づくりお手伝い+ちょつと旅行気分。しかし、車で片道10時間。名古屋から車で行くには体力的に結構無理がありました…。自ら、車で行って申し出たんですけどね…。浜田では、前回なないろ通信に登場して頂いた栗栖さんのお家&ご実家にお世話になりました。海に臨む100年の歴史あるおうち、あたたかい家族のみさんとおいしい海の幸などなど…。魅力いっぱいでした。「まちの縁側キモチづくりワークショップ」では、ビジョングームの最中に民話の語りが始まったり、WS自体が出会いの場となっていて、もうすでに縁側風景を感じました…。ということで、そんなことを思い出しながら編集後記書いてます。 <藤原貴代/会員>

取材情報・投稿・編集スタッフ募集!!

こんないい場所、おもしろいネタあります。行ってきました。など取り上げてほしい情報・話題をどんどんお寄せください。また、一緒に編集やってみたいという方もご連絡ください。お待ちしております。



『エンガワNo. 4<5月号>』平成16年5月1日発行

NPO法人 **まち縁側育み隊** 代表理事 延藤安弘
編集 大久保・藤原・鈴木
名古屋市東区代官町1-5まちの縁側MOMO内
Tel/Fax: 052-936-1717
E-mail: info@engawa.ws